

# P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～  
小学校生活科 編 ① 概要

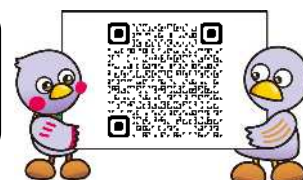
校種・学年	小学校・1学年	教科等	生活科
単元名	ふゆを たのしもう		
単元の目標	冬の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、公共物や公共施設のよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることなどに気付き、生活上必要な習慣や技能を身に付けるとともに、身近な自然を取り入れたり、公園など身の回りの公共施設を大切に利用したりして、自分の生活を楽しくしようとする。		
本時のねらい	冬の自然と自分との関わりを振り返り、夏や秋の様子と比較して、身近な自然や特徴を見付け、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることなどに気付き、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしようとするができるようにする。		
本時の評価規準	【主体的に学習に取り組む態度】 季節の特徴を見付け、四季のよさに気付き、自分の生活を楽しくしようとしている。		

## 事例の概要(見どころ)

本授業は、全9時間の最後の時間である。児童は、季節の変化や自然の物を使った遊びに関する学習を4月から積み重ねており、教師は、児童が今までの学習（他教科も含む）や生活経験からどのような興味・関心を抱いているのか、どのような学習を志向しているのかを具体的に捉え、本単元及び本授業を構成している。

教師は、季節の変化や自分と生活との関わりについての気付きの質を高め、本時のねらいを達成させるために、①児童と丁寧な対話を繰り返すことを大切に、②「きせつクイズを作って交流する」という主体的に表現することができる活動を設定した。


児童は、きせつクイズを作ることを通して季節の特徴やよさを再認識し、さらに、クイズを出し合うことで友達の気付きや関心事に触れることができ、学級全体で気付きの質を高めていた。



# P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～  
 小学校生活科 編 ② 指導展開

- 目標 冬の自然と自分との関わりを振り返り、夏や秋の様子と比較して、身近な自然や特徴を見つけ、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることなどに気付き、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしようとするができるようにする。＜学びに向かう力、人間性等＞
- 準備 ワークシート・タブレット端末・大型モニター
- 展開 (9/9)

児童の活動・意識	評価 (●) と支援 (○)
<p>1 前時までを振り返り、本時の活動の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさん探検したね。</li> <li>・あさがおやチューリップの世話ができたよ。</li> <li>・子どもまつりが楽しかったよ。</li> </ul>  <p>☝黒板だけでなく周囲の掲示物も活用して丁寧に振り返りをしています。</p> <p>＜本時の活動＞ きせつクイズをつくらう！</p> <p>☝生活科は、活動や体験を重視します。本時は、目標に迫る活動として、単に印象に残っている季節を伝える・好きな季節を伝えるとはせず、児童の学習の志向や活動の特徴を精査した本時の活動（伝え合いの活動）を設定しています。</p> <p>💡授業改善の視点①💡</p> <p>・本時の学習活動を児童と共有する際、教師は、前時の振り返りでの児童の気付きや思いを本時の学習活動の必要性へと結び付け、「やりたい」という意欲を促すことが大切です。</p>	<p>○春から秋の楽しかった活動を思い出させ、活動への意欲を高める。</p> <p>○掲示物や写真、自然物等を用意することで、体験したことを十分に思い出したり、他の季節と比べたりして、各季節の特徴や四季の違いに気付くことができるようにする。</p> <p>☝展開1では、“春”からの学びを振り返るため、児童の学びを想起する時間に差が出ます。教師は、丁寧に対話を繰り返し、児童に発言させ、児童の発言をつないだり、価値づけたりしています。</p>
<p>2 自分だけの「きせつクイズ」を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クイズをいっぱい作りたいな。</li> <li>・全部の季節のクイズを作れるかな。</li> <li>・タブレットの写真を使ってヒントを出そうかな。</li> </ul>	<p>○四季の変化や季節によって変わることを言葉に表したり、今まで書いた「見つけたよカード」を活かしたりして、季節に関するクイズを一人一人がカードに書けるようにする。</p> <p>○タブレットを使用したい児童は、紙カードの代わりに使ってもよいことを伝える。</p> <p>○伝え合うときの話し方や聞き方については<u>国語科</u>と関連させて指導する。</p> <p>☝児童の学びは、個別の教科内に閉じるものではなく、それぞれの学びが相互に関連付き、つながり合っています。他教科等で身に付けた資質・能力を生活科で発揮することにより、その資質・能力が確かに育成されるなど、一層の学習の効果が期待できます。学習内容や時期によっては、幼児期の教育で育成された資質・能力を存分に発揮させることも学習の効果を高めます。</p>



👍タブレット端末の特質 ①学習対象と教室を静止画でつなぐ ②静止画・動画などの情報をいつでも、どこでも、繰り返し振り返って学習を深める ③保存・蓄積した情報で児童同士の対話を促す を踏まえた効果的な活用をしています。

👍「見つけたよカード」は、紙のものと同タブレット内のもどちらを使用するかは、児童自身が「自分の思いがよりよく伝わる方法はどちらか」という視点で判断し、選択するよう教師は声掛けをしています。

### 👉授業改善の視点②👉

【👉授業改善の視点①👉】とも関わりますが、児童は、活動自体に夢中になってしまう傾向もあります。何のために「きせつクイズ」を行うのか、どのような視点を大切に、クイズを作成するとよいのか、個々の活動に入る前に全体で確認したり、活動中に個別に声掛けをしたりすることが大切です。

- 3 「きせつクイズ」を友達に出したり、答えたりする。
- ・みんなでやったあさがおの種まきは春だったと覚えているかな。
  - ・どんぐりは秋にたくさん落ちていたってすぐわかるかも。
  - ・春のことは忘れていたけれど、クイズをしたら思い出したよ。

- クイズの型「クイズクイズ」「何のクイズ」「～が楽しかったです。季節はいつでしょう。」等を提示して、発表が苦手な児童でも伝えやすくする。
- 「いいねカード」を用意して、伝える喜びを感じたり、友だちの考えを受け止めたりする。
- よい気づきについては全体へ知らせ、もっと聞きたいことがあれば、質問してよいことを知らせる。



ク～イズ クイズ♪  
な～んの クイズ♪  
秋にあるものです。  
色は、茶色です。形は色々あります。  
これは、なんででしょう？

落ち葉かなあ…  
どんぐりかなあ…  
秋は地面にたくさん落ちていたんだよね。

ク～イズ クイズ♪  
な～んの クイズ♪  
あさがおで色水を作ったことが楽しかったです。  
季節はいつでしょう？

あさがおを育てたのは…  
夏だったね！  
むらさき色、きれいだったなあ。来年も色水作りやりたいね！

- 4 本時を振り返る。
- ・4つの季節のことが前よりもよくわかったよ。
  - ・ルワンダ※の子にもきせつクイズで日本の季節を知らせたいな。
  - ・また冬がきたら、氷遊びしたいな。

- 季節の特徴を見付け、四季のよさに気づき、自分の生活を楽しくしようとしている。【態】(行動・発言・クイズ)
- 季節の特徴を捉えた「きせつクイズ」を発表させることで、さらに「季節の遊びをやってみたい」「四季の良さを知りたい」という思いを広げていくことにつなげる。

### 👉授業改善の視点③👉

「きせつクイズ」を通して、季節の変化への気づきを深めたことや学習したことなどを生かし、自分の生活を楽しくしようとするについて、全体で確認する時間を設けることで、学習したことに対する実感と自信を深めることが大切です。

※本授業を公開していただいた学校には、海外協力隊としてルワンダに赴任している教諭がいらっしゃる。本単元の導入時に、協力を仰ぎ、児童に外国には、日本と異なる季節があること捉えさせ、児童が改めて日本の四季を認識する機会とする時間を設置したことによる表記である。